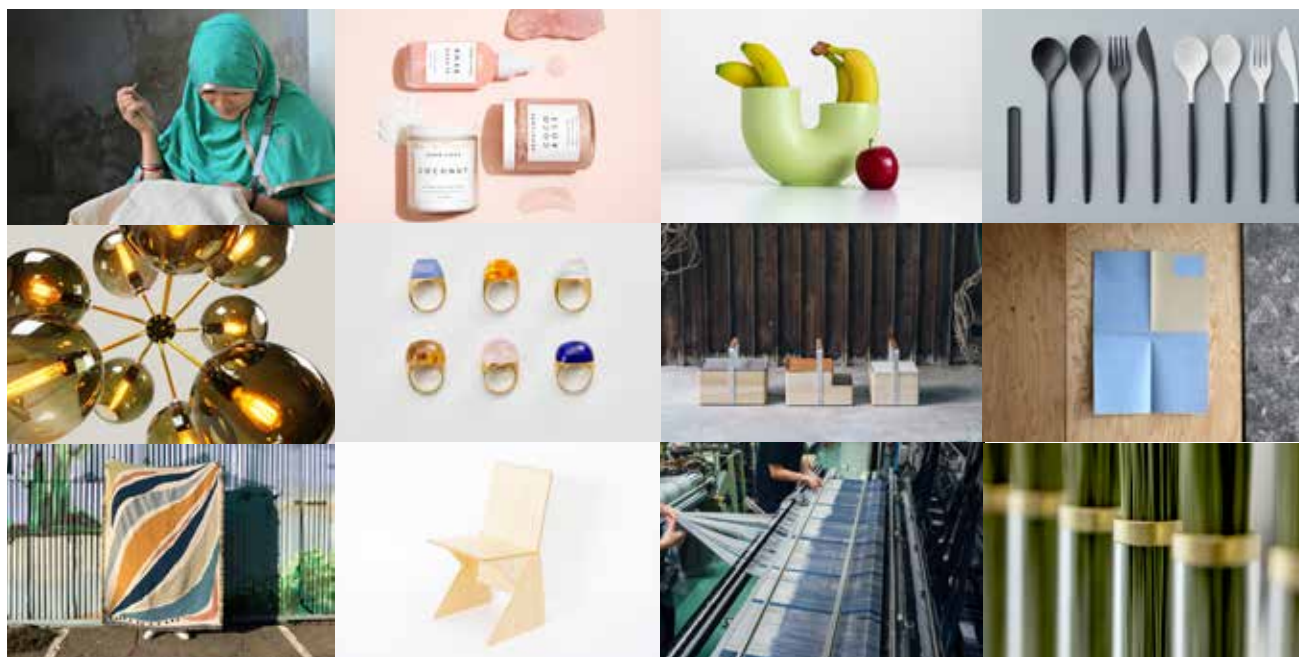




Interior Lifestyle Tokyo 2019 開催！

7月17日(水)–19日(金)

東京ビッグサイト 西1・2・3・4 ホール+アトリウム

今年は初夏の開催！インテリア・デザインの国際見本市「インテリア ライフスタイル」が、7月17日(水) - 19日(金)の期間、東京ビッグサイトで開催いたします。世界各国からデザイン性の高いギフトアイテム、テーブルウェア、食品、ジュエリーからハイエンドな家具、環境や社会を考慮したエシカルなものづくりによるプロダクトなど、世界26カ国・地域、745社(5月20日現在)と、生活にまつわる様々な分野の商材を扱う出展者が集結。モノの背景にあるブランドストーリーや作り手の思いなど隠された魅力を伝える提案型の総合見本市です。

時代の移り変わりとともに多様化するマーケット、さまざまな価値観が溢れる現在、ものを作り、伝える状況は刻々と変化しています。文化、伝統、現在、未来、デザイン、アイデア、技術、コミュニケーション…あらゆるものが集まり、様々な分野の作り手、繋ぎ手、売り手、伝い手などが一堂に会する見本市には、モノを売る・買うだけではなく、人、モノ、情報を通じたさまざまな出会いや発見が溢れています。様々な立場の人々がフラットな関係で、出会い、交流できる場、モノが生まれる前のアイデアや情報、モノだけではない思想や思考までもトレードできる場として、見本市は市場の活力を作り出す源になるはずです。ぜひ、この機会に「インテリア ライフスタイル」にお越しいただき、さまざまな出会いや交流をお楽しみください。

会期：2019年7月17日(水) - 7月19日(金)

会場：東京ビッグサイト 西1・2・3・4 ホール+アトリウム

時間：10:00 - 18:00 (最終日は17:00 まで)

主催：メッセフランクフルト ジャパン (株)

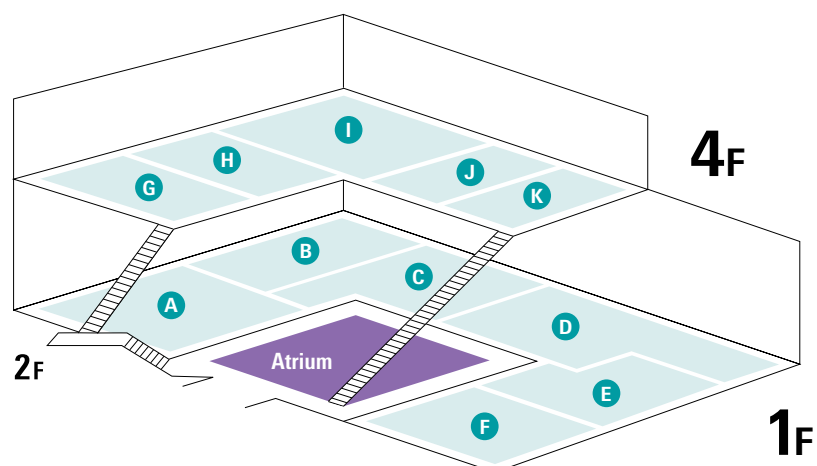
入場料：2,000 円 (招待状持参者および Web 来場事前登録者は無料) <https://www2.mmfcservice.com/ilt2019/ja/regist/index.htm>

Zoning

会場は全13のゾーンで構成しています。

1. アトリウム特別企画	「The Corner Shop -How to make a market-」
	インテリア ライフスタイル史上初の2年連続企画として、method の山田遊氏 率いるディレクションチームがバイヤーにとっての理想の商談の場をさらにアップデート。
2. HOME	新たな住まいのスタイル提案
B C	国産家具から海外ブランドまで幅広いラインナップの中から、住まいの世界観を変える、多様なテイストの家具、照明、テキスタイルなどが見つかります。
3. ACCENT	暮らしに新たなアクセントを
G H J	デザイン雑貨、ギフトアイテム、アート & オブジェ、フレグランス、服飾雑貨、ステーションナリー、デジタルガジェットなど、生活に「アクセント」を加える幅広い商材が集まるゾーン。
4. EVERYDAY	美しい暮らしの生活用品
E	収納や整理のためのアイテム、水まわり品、新しい家事習慣、ホームケアのための毎日の生活用品が揃います。
5. KITCHEN LIFE	食卓から料理まで新たなシーンを
F	上質なテーブルウェアから最新のキッチン道具、ダイニング道具まで、住まいの中心となったキッチン空間のためのアイテムが揃います。
6. GLOBAL	世界各国のブランドが集結
A	日本にいながら海外のブランドやものづくりと出会えるゾーン。インテリア、デザインの世界的な動向が見えてきます。
7. JAPAN STYLE	日本のデザインとものづくりを発信
D	日本国内だけでなく、ヨーロッパやアジアからも注目されている日本のプロダクト。特に洗練された、質の高い日本のプロダクトが並びます。
8. NORDIC LIFESTYLE	上質な北欧のライフスタイル
K	スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドなど日本で根強い人気の北欧ライフスタイルブランドが集結。テキスタイルから小物まで様々なカテゴリーの商材が並びます。
9. MOVEMENT	最新デザインの動向を反映
I	国内外で高く評価されているコンテンポラリーなデザインブランドが勢揃い。
10. NEXT	ステップアップのためのサポートプログラム 1
G H I J L K	注目の若手起業家による新規ブランド発信の場。次世代を担うデザインプロダクトを発表します。
11. TALENTS	ステップアップのためのサポートプログラム 2
I	今後世界にはばたくであろう、新進気鋭のデザイナーと企業を結ぶプラットフォーム。
12. FOODIST	ステップアップのためのサポートプログラム 3
F	国内外のこだわりあるライフスタイルに溶け込む多様な食の提案の場。
13. -JEWELRY- selected by New Jewelry	注目のジュエリー特別企画
G	New Jewelry から選抜されたコンテンポラリージュエリーが集結

ホール内レイアウト
Blocks in West hall



The Corner Shop - How to make a market -

見どころのひとつであるアトリウム特別企画では、インテリア ライフスタイル史上初の2年連続企画。method の山田 遊氏 率いるディレクションチームがバイヤーにとっての理想の商談の場をさらにアップデートします。



今年のテーマは「The Corner Shop -How to make a market-」。イメージは、イギリスの街角にあるコーナーショップ。そんなこの街角にもあるような店舗の、什器レイアウトや動線、サインやPOP、VMDや商品陳列、また、店主やスタッフとの何気ない会話など、実店舗には、見本市にも応用できるような有効な要素が数多く詰まっています。昨年の「For Here or To Go ?」に引き続き、インテリア ライフスタイル史上初となる2年連続のアトリウム特別企画。商品のバイイングはもちろん、店舗そのもののスペシャリストでもあるディレクションチームが、アトリウムを一つの街角や店舗に見立てることで、来場者にとって理想となるような商談の場を、さらに更新していく試みです。見本市はものを見るだけでなく、話をすることが大事という山田 遊氏の考えのもと、昨年同様に、バイヤー、商社、メーカー、デザイナー、プレスなど出展者と来場者が気軽に会えて世間話や挨拶が買い付けや企画に繋がっていくような、ものところが絶妙なバランスで共有できる場所を目指します。

(CORNER SHOP) by method

アトリウム特別企画の入口には、山田 遊氏が店主をつとめる3日間限定のポップアップショップが出現。アトリウム会場を巡るヒントになるような、出展者のダイジェストとしての役割を果たしながら、オリジナル商品も製作・販売。出展者、来場者問わず、実際に商品を購入し、持ち帰ることができます。



CORNER SHOP CAFE

昨年も大好評だったCPCenter プロデュースのトレンドカフェでは、ボリュームたっぷり熱々のブレッドボウルから、リフレッシュに最適なこだわりの自家製コーラ、ソフトクリームまでお楽しみいただけます。アイスコーヒーは、USA・サンタクルーズのVERVE coffeeや福岡のREC coffeeの豆を使った瓶コーヒーもご用意します。



□アトリウムディレクター：山田 遊 / method inc. 代表 wearemethod.com

南青山のIDEE SHOPのバイヤーを経て、2007年、method(メソッド)を立ち上げ、フリーランスのバイヤーとして活動を始める。現在、株式会社メソッド代表取締役。グッドデザイン賞審査委員など各種コンペティションの審査員や、教育機関や産地などでの講義・講演など、多岐にわたり活動中。2014年「デザインとセンスで売れる ショップ成功のメソッド」誠文堂新光社より発売。

□空間デザイン：小林 恭+マナ

□グラフィックデザイン：池田 充宏

□カフェ：塚本 晃弘

設計事務所 ima www.ima-ima.com

DRAWER inc. www.drawer.co.jp

CPCenter www.cpcenter.net

【関連トーク】

山田 遊氏がファシリテーターとなり、アトリウム特別企画ディレクションチームと、また出展者からクリエイティブユニットKIGIと、2本のトークショーを開催します。

□7月18日(木) 14:00 - 15:00

「それぞれの理想の店づくり」

山田 遊×小林 恭+マナ(設計事務所 ima)×池田 充宏(DRAWER inc.)×塚本 晃弘(CPCenter)

□7月19日(金) 13:30 - 14:30

「地域を活かすデザイナーとものづくり」

山田 遊×植原 亮輔・渡邊 良重(キギ)

会場： 東京ビッグサイト 西4ホール LIFESTYLE SALON ステージ

Award

「インテリア ライフスタイル」が企画する2つのアワード



Best Buyer's Choice 2019

業界を牽引するショップの名バイヤーとして活躍する人物を招き審査を行い、出展者の中から1組が選定されます。今後のバイキングの指標ともなるアワードです。

審査員：大島 忠智氏 (IDEE バイヤー)

Young Designer Award

若手デザイナーを支援する特別ゾーン「NEXT」「TALENTS」から選定されます。受賞者はドイツ・フランクフルトで翌年2月に開催される、世界最大級の国際消費財見本市『アンビエンテ』へ招待されます。約14万人の来場者に対して自身の活動や作品をアピールするチャンスが広がります。審査員：ニコレット・ナウマン (Messe Frankfurt GmbH アンビエンテブランド総責任者)

ETHICAL

ものと、人と、社会の関わり



MADE51

www.made51.org

ゾーン：GLOBAL A-41

2016年にUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が設立したMADE51は「難民に持続可能なビジネスチャンスと生活を提供すること」を目指したプロジェクト。今まで各国・地域で独自に行われていた難民による手工芸品の制作・販売活動をMADE51というブランドで統一したことが、このプロジェクトの大きな特長。現在13カ国・11の団体とパートナーシップを組んでおり、「難民が作った」モノではなく「顧客が欲しい」モノを生み出すことにこだわった、選りすぐりの商品だけがラインナップされている。



PASS THE BATON

東京

www.pass-the-baton.com

ゾーン：ACCENT H-60

「NEW RECYCLE」がコンセプトの現代のセレクトリサイクルショップ。長く倉庫に眠っている古いモノや、小さなキズで破棄されてしまうB品に手を加えて、むしろもっと素敵にできないかと心を込めてリメイクをしている。ミナペルホネン×PASS THE BATON Remake tablewareシリーズは、B品の業務用食器にミナペルホネンがデザインを加えたオリジナルのテーブルウェア。他に、約40年前に浜揚げ後、琵琶湖周辺の生産者のもとで眠っていた「ビンテージパール」と呼ばれる純白の“びわ湖真珠”を使用した‘PASS THE BATON’オリジナルのピアスとリングなどを発表。



オークヴィレッジ (株)

岐阜

www.oakv.co.jp

ゾーン：HOME B-26

1974年の創業時から、持続可能な循環型社会を目指し、「木」という再生可能資源によるものづくりをおこなってきたオークヴィレッジ。使用する材は国産無垢材のみ。また、オークヴィレッジのものづくりは、金具を一切使用せずに伝統的な木組みだけで行い、制作するものは小物、家具、建築と多岐にわたる。本体部分からオーナメントにいたるまで国産の天然木を用い、また、伝統工法を取り入れて生まれたツリーの形をしたオルゴールは、力強く美しいものに。



RATTA RATTARR

長野

rattarrattarr.com

ゾーン：NEXT J/N-78

軽井沢のアトリエでクリエイター(障がい者)とアトリエリスタ(支援員)の相互補助関係によって制作されるブランド。アトリエリスタがテーマやツールを選定し、クリエイターが描いたデザイン画を用いて独創的な商品を生み出している。現在、軽井沢には20名以上のクリエイターが在籍し、デザインスカウトキャラバンと称したワークショップを全国各地で実施し、クリエイターの発掘にも力を入れている。2018年にはELLE DECO International Design Awards (EDIDA)のJapanese Social Design Projectに選出されている。



mizuiro (株)

青森

mizuiroinc.com

ゾーン：ACCENT H-41

青森県生まれのデザイナー、木村尚子による「おやさいクレヨン」。原料は本物の野菜や果物をパウダー加工し配合、エシカルな観点からも開発されたシリーズで、子ども向けの食育活動にもつながるものがある。万が一口にしても安心安全。主原料はライスワックス、米油。これらは精米する際に排出される米ぬかから採れた、食用の油。世界で初めて、mizuiro.incシリーズのクレヨンに使われている。自社にて新商品企画からパッケージデザイン、ブランディングまで一貫した製品づくりを行っており、今回は新製品のおはなのクレヨンstandardを発表予定。

技術が生み出す新しい価値



(株) ZIKICO

東京

www.zikico.com

ゾーン：アトリウム S-48



flames

愛知

flames-jp.com

ゾーン：MOVEMENT I-07



カミノシゴト

岐阜

www.kaminoshigoto.com

ゾーン：ACCENT H-45

『ジルコニア』という素材に特化したプロダクトブランド。コンピューター・デバイスの部材メーカーで、ジルコニアの加工技術を開発する研究チームによって、2018年に創業。手工業デザイナー大治将典をブランディングディレクターに迎え、商品開発を行う。ダイヤモンド・ルビーに次ぐ硬さを持つ鉱物由来のジルコニアは、2種類の結晶を内に秘め、外から加えられる力によって柔軟にそれを変えられるので、金属の様な硬さとしなやかさを兼ね揃える。約1400°Cの高温で焼結して作られているセラミックスで、磁器と同様に金属イオンの溶出がなく、金属アレルギーを起こさない。本展では、軽量かつ、なめらかな口あたりの、カトラリー「SUMU」を発表。

80年以上の歴史を持ち、金具ひとつから自然エネルギー事業まで対応する工業製品加工会社ナガサキ工業が、2018年に自社の鉄加工技術を活かして立ち上げたアイアンBBQギアブランド「flames」。ブランドの中心アイテムとなる「ロースタイルBBQグリル」は、囲炉裏を囲んで語らう日本人のアイデンティティから着想し、火を囲むことで人と人との距離を縮め、食材が焼きあがるライブ感とそこに溢れる会話を楽しめるような設計に。シンプルでスタイリッシュなデザインながら、様々な機能が組み込まれている。ファクトリーブランドならではの技術によって、熱が加わった時に変形しないような構造や材料選びが特徴。

明治22年(1889年)創業。ちょうちん用紙の加工販売に従事し、絵付け・印刷などを手がけてきた家田紙工(株)。今回は、美濃手すき和紙を使った「アクセサリー」「ウィンドウデコレーション」「水うちわ」などを発表。水うちわやアクセサリーの模様はデザイナーの高橋理子氏が手がけたもの。また和紙のノートはロンドンのSebastian Conran氏によるデザイン。新作は、手すき和紙を手で折って仕上げたアクセサリー「Origami Jewel」。



DYK / (株) 高儀

新潟

www.dyk-takagi.jp

ゾーン：アトリウム S-49



稲元マーク (株)

東京

www.inamoto.me (7/17 公開予定)

ゾーン：ACCENT H-63

のこぎり鍛冶として慶応2年に新潟、三条で創業した高儀。150余年に渡り、大工道具の製造を通じて培ってきた、精緻な技術と理念を生かして新たに作られたキッチンツールブランド「DYK」(ダイク)。道具それぞれの相性を考え巧みに使いこなす「取り合わせの妙」という考え方をベースに、機能美が活かされた一貫性のあるツールを開発している。デザインは、鈴木啓太が率いるPRODUCT DESIGN CENTER。数百のプロトタイプから生まれた機能的な包丁、金属の質感が美しい調理道具、軽やかな使用感のナイロン製のトングを始めとしたキッチンツールに加え、専用の収納用品までをラインナップしている。

1963年の創業時より長きにわたり、車の内装部品、デジカメの外装部品、携帯電話やオーディオ部品などを手掛け培ってきたアルミの仕上げの技術をインテリアやデザインの分野にも生かそうと、アルミ素材のミニマルな美をヘアラインやスピン切削、ダイヤモンドカットなどのテクニックで表現したインテリアアクセサリを初お披露目。インテリアに彩りを添えながら、シーンにより、花器として、カトラリースタンドとして、またはファッションアクセサリとして、大切なものを収めるのにぴったりなアイテム。

歴史、その先に



©masaki ogawa

大蔵山スタジオ (株)

宮城

okurayamastudio.com

ゾーン：MOVEMENT I-03

1887年創業。宮城県南部に位置する大蔵山で5代に渡り伊達冠石の採掘、加工を行う。暮石や建材のみならず、アートプロダクトや建築製品などでの活用が広がっている伊達冠石の魅力をより広げべく、石の表情や石のもつ内面的な力を感じれるような生活に身近な石製品の企画開発、提案を行なっている。本展では、伊達冠石を用いたドアハンドルシリーズを発表。石のもつ自然の無垢の表情の美しさや、内面的な力強さを現代のライフスタイルの中で提案する。



FUJITAKA TOWEL GINZA

愛媛

fujitakatowel.jp

ゾーン：JAPAN STYLE D-04

今年創業 100 周年を迎え、今治で現存するタオルメーカーとして最も歴史を持つ藤高タオル。糸から独自で開発し、糸染から最終生産まで一貫生産を行っている。国内製造と自社の技術にこだわり、特許を取得した技術も有する。100 年の技術で実現した究極のベーシックタオル“HOUSE TOWEL”は、インドで出会ったシャンカー 6 のセカンドピクの時期に手積みした綿を使用。定番の 10 色に加え、毎年季節に合わせて限定カラーを発表。色同士を組み合わせやすく、心地よく、美しく暮らせる日用アイテムを発表。ブランドディレクションは、10inc 柿木原政広氏が参画。



長谷園

三重

www.igamono.co.jp

ゾーン：KITCHEN LIFE F-03

太古の昔、琵琶湖の湖底だった伊賀の地。その地層から採れる陶土は炭化した微生物や植物を多く含み、高温で焼くことで細かい気孔ができるため、遠赤外線効果と蓄熱力の高さが特徴。食材の芯までじっくりと熱を伝え、旨みを逃さず美味しく仕上げることから、伊賀土鍋は、民具として長い歴史を持つ。その地で 1832 年創業した伊賀焼の窯元「長谷園」は、常に時代を見据えたものづくりを展開。今回開発した「土鍋焙煎ポット」は、土鍋ならではの遠赤外線効果でコーヒー豆を焙煎。自宅で気軽に好みの焙煎を楽しむことを提案。コーヒー焙煎工房 IFNI ROASTING & CO. が開発したオリジナル器具をセットで展開。



SKOOLER、810s / MOONSTAR

福岡

www.moonstar.co.jp

ゾーン：ACCENT H-08

1873 年創業、座敷足袋生産に始まり、1920 年に地下足袋研究に着手、現在は学校用、作業用シューズから革靴やスニーカーまでを手掛ける総合靴メーカー / シューズブランド。学校指定靴や作業靴のパターンや素材を見直し、懐かしさの中にどこか新しさを感じるデイリーユースに合わせやすいカジュアルシューズ「SKOOLER」、厨房や医療現場などでプロユース求められる機能性を活かしながらデイリーユースとしてちょうどいい形に再定義したスニーカー「810s」を展開。長い歴史と、幅広い靴作りのノウハウを活かした「SKOOLER」「810s」の 2 シリーズを出展。



高岡屋

京都

www.takaoka-kyoto.jp

ゾーン：HOME C-20

1919 年創業の(株)高岡が、代々受け継いできた座布団、布団作りの技で作り上げたブランド「洛中高岡屋」は、日本の暮らしに沿った寛ぎアイテム“寛具”を、一点一点職人の手で仕立てている。靴を脱いで床でくつろぐのは日本人ならではのスタイル。そのキーマンアイテムの座布団は、現代のインテリアや、海外から訪れる方々にも合わせ、高さのある座りやすい形状に。“おじゃみシリーズ”は、4 枚の布で仕立てるお手玉(＝関西でおじゃみと呼ぶ)の形をモチーフに、フロアでどんと腰掛けていただく小型のソファの様な仕様。海外客が増えている近年の宿泊施設からも高く評価されている。ロットがなく、1 点からのセミオーダーや別注も可能。

NEXT

新たな視点や思考から生まれるデザイン



Pull Push Products.

京都

pull-push.com

ゾーン：NEXT G/N-45

「素材」と「物語」をモノ作りのコンセプトに、身近な素材と斬新な視点、独自の製法によって、使う時の楽しさ、触れた時の質感を大切にしたいアイテムを提案するクラフトブランド。手仕事の中で生まれる繊細さや緩やかさを大切に、作り手の温度が伝わる製品づくりを行なっている。本展では、図面複写などに用いられていたジアゾ式複写技法(青焼)による、青色に感光した紙の特性を用いたコレクション「diaz」から、時の痕跡を残したポスター「FADE AWAY」など新作を発表。紙を「巻く」「折る」等手を加え、紫外線を一定期間浴びせることで、紙の重なりやラベルの位置を色褪せた柄として表現。詩的でコンセプチュアルなプロダクトを提案。



tunnel design

神奈川

www.tunneldesign.co.jp

ゾーン：TALENTS I/T-01

仲野 耕介と河上 真理によるデザイン事務所。感情、環境などといった曖昧な事象に輪郭を与えることで、人々がより幅広い物事を共有できるような、新しいコミュニケーション手法を設計することを目指し、内装設計、家具 / 什器 / プロダクトのデザイン、製作、デザインディレクション等幅広く手がける。「家具、人、流通の関わり方」を再考するプロジェクト KANAME から、ユーザー自ら組み立てられ、必要なポイントで光源を保持できる機能的なデスクライト "task" をはじめ、接合金物により 45 度を開いた脚がデザイン的特徴となる "table"、H 型モジュールを積み上げ、金物で結合することで無限に増やせるシェルフシステム "H" などを発表。



アトリエヨクト

山梨

www.a-yocto.jp

ゾーン：NEXT G/N-44

南アルプス・白州にアトリエを構え、人それぞれが工夫して使い込める余地のある道具や家具のデザイン・制作を行うアトリエヨクト。最小単位である "yocto"。より小さな部分はより大きな全体と相似形をなすフラクタルの概念のように、最小の単位である意識、つまり“原因の世界”をデザインすることを目指し活動。今回、日本で料理などを運ぶ道具として使われてきた「岡持ち」。このシンプルで便利なハンドル付きの箱を、現代の生活に合った仕様、モジュールでデザインした「OKAMOCHI (オカモチ)」を発表。料理を詰めてピクニックへ、日常のティータイム時、または仕事や趣味の“運べる道具箱”として、使う人それぞれに合わせてカスタマイズが可能。



m.Funatabi

神奈川

www.mfunatabi.com

ゾーン：NEXT I/N-65

アートと工芸の間、厳かな技術と芸術的かつ柔軟な感覚を併せ持つ、現代のクラフトプロダクトの制作を目指し、テキスタイルデザイナー大木もと子が、2017年よりスタートしたテキスタイルブランド「m.Funatabi」。デザイナーによる手染めの一点ものの布として、臙纈(ろうけつ)染め、植物染め、墨染など、伝統的な技法を用いながらもデザイナーのアートワークを落とし込み、現代のクラフトテキスタイルを展開。本展では、臙纈染という手描きの布で作られたカシュクールコートをはじめ、植物染め、墨染の服やマルチクロスなどテキスタイルアイテムを発表。



炭酸デザイン室

滋賀

tansandesign.jp

ゾーン：TALENTS I/T-03

2014年にテキスタイルデザイナーの水野智章と井野若菜によって設立した「炭酸デザイン室」。自然豊かな滋賀県にアトリエを構え、日々の暮らしの中からインスピレーションを受け、鮮やかな記憶としてテキスタイルを生み出している。オリジナルブランド TANSAN TEXTILEをはじめ、企業とのコラボレーション、デザインなど行う他、モンゴルでデザイン指導、台湾での商品展開、フランスでの展覧会など、国内外で活動の場を広げている。今回、ラグをテーマにした革新的なテキスタイルを発表。バックやポーチなど"持ち歩けるラグ"や木彫作品も提案。



ALBELROY

東京

www.albelroy.com

ゾーン：NEXT H/N-63

「極小の家具」をコンセプトに、プロダクトデザイナー大西宣彰が立ち上げたブランド「ALBELROY」。家具を自在に配置しながら、自分の心地よい居場所をつくるように、デスクを極小空間に見立て、真鍮などを用いた上質なアイテムを展開。日本独自の表現である「しつらい(室礼)」を再解釈し、使う人の所作や感情にも影響を与えるプロダクトとして、人間と建築の仲立ちになるブランドを目指す。本展では、考古学的彫刻へのオマージュとして表現したブックエンドを始め、ペントレイ、名刺ホルダー、小物入れなど、其々のストーリーと共に発表。

ものが生まれるさまざまな背景



AND WOOL

静岡

www.andwool.com

ゾーン：NEXT J/N-77

つくる工程を知ってもらうことで、楽しさや豊かさを感じて欲しいと、ファッションデザイナー村松啓市が、編み物を通して、ニットの価値や手仕事の魅力を伝えるべく、2016年に立ち上げた「AND WOOL」。世界的に希少となった手編み職人に焦点を当て、効率を考えたニットデザインを行い、作り手を育て、それを必要とする消費者や企業とをつなげるプロジェクトを行う。在宅ワークを必要とする人や、同僚の障がいを持った方が通う就労継続支援B型事務所とも提携し、技術指導も行う。本展では、手編み機で編んだカシミア混の大判ストールなど、手仕事の温かい風合いを持ったギフトに喜ばれるアイテムを発表。



松葉畳店

静岡

www.matsubatatamiten.jp

ゾーン：NEXT G/N-28

1977創業した松葉畳店。日本家屋の欧米化により畳の需要が激減している現代に、畳の香りや心地良さを知るきっかけづくりとして、5年前よりスタートした雑貨事業部。イ草の吸湿効果など特性を生かし、現代の生活に寄り添う小物やインテリア雑貨を提案している。本展では、イ草生産者や職人が激減してゆく背景を考慮し、プロデューサーに日原佐知夫氏、デザイナーに秋山かおり氏を迎え、生産者や職人と共に、通常、廃棄となる短イ草を用いて、インテリアにアイテムを開発。草花や枝葉を生けるように手軽に、い草を差し替えることで新しい空気をインテリアに取り込む、Vase/Partition『TATTE』を発表。



MIYAVIE

福島

miyavie.com

ゾーン：アトリウム S-02

サスティナブルを考慮した安全でリサイクルできるポリエチレンなどの樹脂を溶融・加工し糸状にした空隙を備えるスプリング構造の成形品。樹脂の種類、形状、密度、重量、しなやかさを自在に変化させることにより、インテリア・家具はもちろんのこと、建設資材から医療・介護に至るまで、今までになかったライフスタイルを創造するマテリアル。アーティスト木村浩一郎がディレクターをつとめ、限りある地球の資源を未来に繋げていくこと、芸術性と社会性を追求し創造していくことを理念に、柔軟な発想で常に新しい素材や製品の開発に挑戦している。



Camphor

東京

camphor.tokyo

ゾーン：NEXT G/N-47

「こどもがこどもらしく」をコンセプトに、良質な素材、日本の職人技術にこだわり、丈夫で長く愛用できるものづくりを提案するキッズブランド。ワークショップなど、こどもたちの関わりを大切にこどもたちの目線で共に考えたものづくりを目指す。ヒノキの廃材を有効利用したヒノキコットン糸を用いた子供服や雑貨、廃材の桶を再利用した玩具など、サスティナブルなものづくりにも取り組む。本展では、名古屋にある老舗文具メーカー「東一文具」の蜜蝋クレヨンと廃材の桶を再利用し、家具職人が作り出すあたたかみある木製の卓上クレヨンケースのセットなど新商品を展開。

日本に伝えたい世界のプロダクト



Slowdown Studio / KIAN
U.S.A / 東京
kian.co.jp
ゾーン：NEXT G/N-46

オーストラリア生まれ、現在はロサンゼルスを拠点に活動するグラフィックデザイナーの Marc Hendrick による、ブランケットを中心としたホームプロダクトブランド「Slowdown Studio」。世界中から新進気鋭の若手アーティストを発掘、コラボレーションし、彼らの絵画をプロダクトに落とし込んだ多彩なコレクションを展開。主力商品であるブランケットは、3~4ヶ月のペースで新作を発表。コットン100%でしっかりとした厚みを持ち、ブランケットとしてだけでなく、屋内外でラグとしても活躍するアイテム。本展では、新作として、NY、ロサンゼルス、ベルリン等を拠点に活動する作家の4柄を発表する。



パシフィック洋行 (株)
東京
www.pacificyoko.com
ゾーン：ACCENT G-09

豊かな暮らしの"まんなか"を作るをテーマに、雑貨や食品の輸入販売しているパシフィック洋行が、欧州からの日本初上陸のアイテムを紹介。デンマークのブランド「DonebyDeer」は、モノトーンや落ち着いたパウダーカラーの食器やトイが人気。パーティデコレーションと合わせたお部屋のコーディネートをご提案。また、宝石のように見た目も美しい岩塩をセットしたスウェーデンのブランド「rivalsalt」からは、新たにスパイスが新登場。人とは違ったギフトを送りたい方におすすめ。



CLAUS PORTO / (株) ルック
ポルトガル / 東京
clausporto.com
ゾーン：アトリウム S-31

「CLAUS PORTO(クラウス ポルト)」のルーツは、1887年に2人のドイツ人紳士が美しく歴史あるポルトガルの街で、ボディケアとフレグランスをメインとするブランドをスタート。ポルトガルの香りや風景からインスピレーションを得たフレグランスをベースに、ソープ、コロン、キャンドル、ディフューザー、メンズケア用品における専門性を磨き、さらには、ヴィンテージラベルなどポルトガルの文化に根ざした手製のパッケージデザインなど、充実の製品ラインを創り上げた。先進的なデザインと伝統的な製法を守り、130年の歴史の中で古くから愛されるラグジュアリーなライフスタイルブランドが日本再上陸。



(株) メリーゴーラウンド
アメリカ / 東京
herbivorebotanicals.jp
ゾーン：ACCENT G-12

2011年にJulia WillsとAlexander Kummerowがアメリカ・シアトルの自宅キッチンでスタートしたオーガニックスキンケア・ボディケア用品のブランド、Herbivore Botanicals(ハービヴォア ボタニカルズ)。100%天然由来原料(植物、鉱物由来)。オーガニック栽培された植物に加え、日本の竹炭やフランスのピンククレイ、ブラジルの天然鉱物など厳選した天然素材のみを使用している。肌あれを防ぐ100%ナチュラル成分のスペシャルオイル美容液、フェイスオイル(ラビス)がおすすめの商品。



G.E.M
名古屋
excellence.shop-pro.jp
ゾーン：HOME A-21

ラグを中心とした家具、インテリアのコーディネート提案する「Gallery Excellence」。長年ベルシャ絨毯に携わる仕事をしていたオーナーが定期的にイランやモロッコに向き、豊富な知識と目利きで手織りのラグや絨毯を買い付けている。地域や部族により様々に分類される、ギャッペ、オールドギャッペ、トライバルラグ、ペニワレン、ベルシャ絨毯などハンドメイドラグは、芸術性が高く全てが一点物。天然素材が用いられ、オールド、ヴィンテージとなることで生まれる経年変化も魅力の一つ。本展では、巨匠建築家やデザイナー達から支持された、モロッコの遊牧民・ペニワレン族の無染色の上質なウールを使用したラグなど展開。



タスマンインターナショナル (株)
千葉
tasman-inter.net
ゾーン：KITCHEN LIFE F-21

英国のストーンウェアブランド「Denby」(デニビー)の歴史は、1809年、ダービーシャー州で道路建設時に粘土が発見された時から始まる。それから200余年、熟練した職人達が特有の粘土と自社開発の釉薬を駆使し、その製法は代々受け継がれている。5000種類以上の釉薬を持ち、全ての製品は最低2回以上焼き上げ、緻密に焼締められる。完成までにおよそ25人の職人の手を経由し、多くの工程を経て丁寧に製造される。普段使用のストーンウェアとして、オープン・電子レンジ・食洗機・フリーザーの使用が可能で丈夫で割れにくいのが特徴。今回は、Brew Coffee&Teaシリーズより、エスプレッソカップ&ソーサーなどコーヒー関連アイテムを発表。



(株) センプレデザイン
東京
www.sempre.jp
ゾーン：MOVEMENT I-11

センプレデザインから、日本初上陸となるデンマークのブランド「Ro Collection」を発表。「Ro」は、デンマーク語で、「静けさ」「落ち着き」「心の安らぎ」を意味し、クラフトマンシップ、品質、そして、静けさへの愛に根ざしたデザイン会社「Ro」によって2013年に立ち上がったブランド。耐久性に優れた素材を使用し、何年、何世代と使用できる商品へのこだわりをもつ。本展では、「Ro Collection」のアイテムを一堂にラインナップ。

暮らしを彩る各地の器



東京西海（株）
東京
tokyosaikai.com
ゾーン：アトリウム S-47

波佐見焼を中心にテーブルウェアの持続可能な企画開発・販売を行う東京西海。定評あるテーブルウェアブランドの新作発表に加え、ロンドンを拠点に活動するプロダクトデザイナーの Sebastian Bergne（セバスチャン・バーン）と開発した花器ブランド "há"（ハ）を日本で初披露。チューブのようなユーモア溢れる形状と素地に顔料を練り込んだカラーバリエーション。シンプル、ミニマルでありながら良質な磁器から作られる há は、デザイナーと技術者の創意溢れるコラボレーションにより生まれたもの。植物を活けるだけではなく、シーンや目的により様々なアイテムと組み合わせ、住まいで自然を楽しむ機会を提案。



THE HARVEST /（株）ロイヤル物産
東京
www.royal-bussan.co.jp
ゾーン：KITCHEN LIFE F-02

国内ホテル、レストランに向けて、40年に渡り、業務用食器販売を行ってきたノウハウを活かし、一般家庭でもプロユースにも対応できる食器の製作、販売を行うロイヤル物産。国内のやきもの産地をめぐり、それぞれ産地の特性を活かしたテーブルウェアを製作するオリジナルブランド "THE HARVEST" のほか、メキシコで100年近く続くテーブルウェアメーカー "ANFORA" を紹介。"Enjoy! All Day Dining!" をコンセプトに、時、場所、料理を自由にコーディネート出来る器を提案。



AKIZUKIEN（有）お茶の秋月園
長崎
www.akizukien.jp
ゾーン：FOODIST F/F-14

日常の食事のお供としてのお茶ばかりではなく、「お茶を楽しむ暮らし」の提案をする AKIZUKIEN。緑茶、国産紅茶、健康茶など、さまざまなシーンや季節に合わせて味わうことのできるお茶をバリエーション豊富にご紹介。自社工場はオーガニック認証を受けており、オーガニック素材や自然派の素材を多く使用し、自然な香りを楽しんでいただけるよう製品展開をしている。時間を置くごとに熟成を続けるお茶は、深みのある味わいに代わっていく。緑茶や国産紅茶での味の変化を季節に応じ楽しむことを提案。ティーバッグの素材には、土にかえるトウモロコシ繊維を使用。



KIKOF
滋賀
kikof.jp
ゾーン：アトリウム S-07

KIKOF（キコフ）は、東京を中心に様々なクリエイションを行う KIGI と、滋賀県の琵琶湖周辺を拠点に活動する伝統工芸の技術者たちが集まってできた組織マザーレイクプロダクツが共同で立ち上げたプロダクトブランド。母なる湖琵琶湖周辺には、古くから職人たちが、陶器、縮緬、麻、木工、漆、仏具などの製造を生業としている。伝統工芸と長年培ってきた技術に、現代の思想をもったデザインを取り入れることで新しい波を起こしたいと発足。時代の生活に寄り添い、長く愛用されるプロダクトを作っている。初出展となる今回は、テーブルウェアを中心に展開。



UTSUA /（株）まるぶん
佐賀
www.marubun-arita.co.jp/news/utsua/
ゾーン：JAPAN STYLE D-03

UTSUA（うつわ）は日本の有田から世界に発信する新しいテーブルウェアのブランド。2016年の有田焼創業400年事業のひとつとして、佐賀県と在日オランダ王国大使館との協定により始まったクリエイティブレジデンシアリティ事業で、有田に滞在したオランダ人デザイナー、Tijmen Smeulders（タイメン・シュメルダース）のデザインを、現代のテクノロジーと職人の高度な手仕事によって製品化。最初のコレクションとして11のスタンダードアイテムを2019年春に開催されたミラノデザインウィークにて発表。この度、インテリアライフスタイル2019より展開をスタート。

FOODIST
こだわりの食の提案

おいしい日本茶研究所
静岡
oitea-lab.shop
ゾーン：FOODIST F/F-02

日本茶をより身近に自由に楽しむことをコンセプトに、新しい切り口の日本茶アイテムをデザイン・開発する「おいしい日本茶研究所」。茶処静岡で創業、百年余りの茶通亭が、飲み物としてのお茶はもとより、食の視点からも日常により身近に、より美味しく自由で楽しい茶アイテムを、デザインし研究している。本展では、生産茶葉の成分を丸ごと100%いただくことができる日本茶のペーストを展開。スイーツはもちろん、ごはんやパスタ、ドレッシングなど様々なアイディア料理にも使用できる。



美観堂
岡山
yuurin.co.jp/bikando
ゾーン：FOODIST F/F-04

岡山県倉敷市美観地区を拠点に「心の豊かな暮らしを創る」を理念とするローカルベンチャー（株）有隣。宿泊業、飲食業、小売業など様々な形で倉敷の地域資源の発掘、紹介、プロデュースを行う。地域の会社、生産者、作り手と共に、「岡山・倉敷のほんとうにいいものを」をコンセプトに食品や生活雑貨の開発、製造、販売を行なう「美観堂」から、創業 150 年の老舗醤油醸造所と組み、岡山が誇る高級食材の黄ニラを贅沢につかったオリジナル醤油「美観堂謹製黄ニラしょうゆ」等食材を展開。現在開発中の“岡山のマイルドなパクチーを使用したおしょうゆ”（仮称）や“体に優しいヌテラ”などを紹介する。

ジュエリーやファッションアイテムも豊富



TOMOKO
東京
prome-garden.com
ゾーン：ACCENT G-06

『TOMOKO』はバスケット作家の大澤友子が、アメリカ東海岸ナンタケット島発祥の伝統あるナンタケットバスケットをベースに、モダンな意匠と日本独自のミニマムな美意識を反映させてつくるコンテンポラリーバスケットブランド。2009 年以降、定期的にナンタケット島を訪れ歴史や技術を学び、材料を仕入れ日本、アメリカで制作しています。バスケット一つの制作にいくつもの工程があり、すべて手作業で製作するため二つと同じものはありません。今回はジュエリー作家 石渡明子（Stitch）や、漆職人など日本の伝統工芸に携わる作家とのコラボが実現。ランプシェードの新作バスケットも発表予定。



COTTLE
岡山
cottle.jp
ゾーン：ACCENT H-07

2015 年、国産デニムの発祥地、岡山県倉敷市児島で創業。自社工場を構え、ジーンズ、シャツ、一点物のハンドメイドアクセサリーや、クッション、エプロン、トートバッグなどのホームグッズの製造・販売を行なう。特にジーンズは民藝の残る町並みと繊維の町という二つの顔をもつ、倉敷の架け橋になる製品を作りたいという思いから COTTLE の JEANS が誕生。「私たちのものづくりは、素晴らしい素材と生地との出会いに始まります。愛着を持って長く着込むことでその生地的美しさが増し、持ち主だけの一着となるように。」と染色の染め直し、縫製のお直し、サイズの調節や補修などのケアも含めた提案も行う。



bororo
東京
bororo.jp
ゾーン：NEXT G/N-39

bororo は旅する宝石商。天然の美しい宝石を自然のままのカチで届けたい。地球からの贈りものをひとりでも多くの人に届けたい。その願いを叶えるため、美しい宝石を探しに世界中どこへでもかけていき、世界各地で買い付けた宝石でジュエリーを制作している。今回の展示は「石の中の宇宙を覗く」をコンセプトに開発されたロックシリーズを中心にラインナップ。伝統工芸士が地金と石を貼り合わせてから同時に磨く技法「同擦り」を用いて、シームレスで一体感のあるフォルムを実現している。



MIND THE HAT
東京
mindthehattokyo.com
ゾーン：NEXT G/N-38

“いくつになってもキャップを被る、そんな美しくユーモアを持つすべての女性へ”というメッセージを込めて、デザイナー 村上真冬が、2017 年立ち上げた帽子ブランド。少し高めクラウンやブリムの形状などユニークなフォルムでありながら、女性らしいディテールにこだわったデザイン。MIND THE HAT の帽子は、天然草、布帛、ニットなど様々な異なる素材を用いて、それぞれ日本の職人によって一つ、一つ丁寧に作られている。



TAITAI
東京
store.taitai-taitai.com
ゾーン：ACCENT G-03

コレクションブランド、セレクトショップでデザイナーとして経験を積み、2018 年にスタートしたブランド「TAITAI」。荷物を軽くし快適な登山を楽しむ、アメリカ発のウルトラライトハイキングというスタイルに発想を得た、“ウルトラライトシリーズ”のバッグ。中でも最新の PITTA は、温かいもの・冷たいものの温度を保ちながら持ち運びたい時に、カジュアルに使えるクーラーバッグ。他に、TAITAI オリジナルの手法でレザーのクズをアップサイクルした素材を用いたリサイクルレザーシリーズも展開。



G.F.G.S.
新潟
www.gfgs.net
ゾーン：ACCENT H-09

昭和 39 年創業の小柳メリヤス。リーマンショックの際に廃業寸前までいきつつも、平成 25 年に現代表が引き継ぎ、第二創業。古くから繊維産業が盛んである新潟県加茂市に根ざしたファクトリーブランドを。繊維産業が抱える問題「大量生産・大量消費・大量廃棄」をいかに解決するかを模索する中で、完全受注生産のボーダーカットソーのブランド「G.F.G.S.」が生まれた。注文を受けてから、自社工場で一着一着生地の編み立てを始めます。「これまで誰もしたことのないものづくり」を地方の一商店街から世界へ向けて発信する。